

都市再生整備計画 事後評価シート(素案)  
大分市中心市街地地区

令和7年3月

大分県大分市

様式2-1 評価結果のまとめ

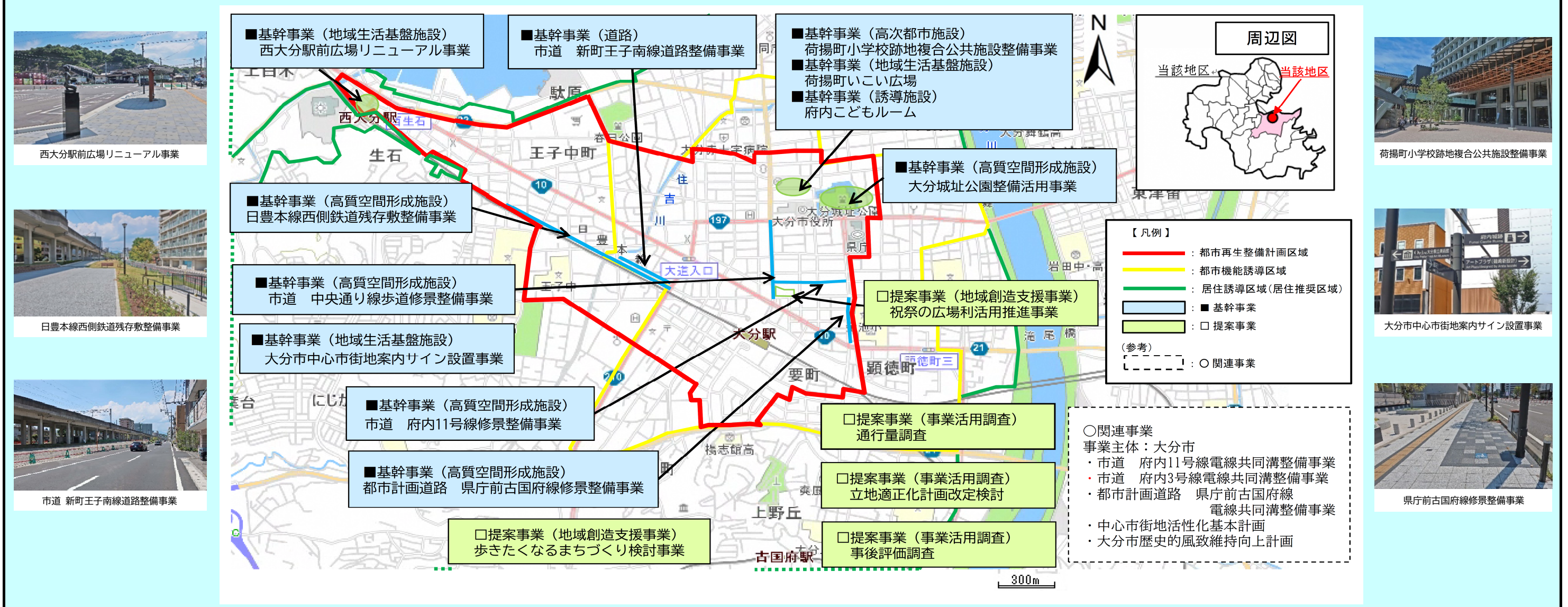
都道府県名	大分県	市町村名	大分市	地区名	大分市中心市街地地区			面積	301ha				
交付期間	令和2年度～令和6年度	事後評価実施時期	令和6年度	交付対象事業費	3310.0百万円	国費率	0.495						
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名										
	基幹事業		地域生活基盤施設(大分市中心市街地案内サイン整備事業)、高質空間形成施設(日豊本線西側鉄道残存敷整備事業、市道 府内11号線修景整備事業、都市計画道路 県庁前古国府線修景整備事業、大分城址公園整備活用事業)										
	提案事業		地域創造支援事業(祝祭の広場活用促進事業)、事業活用調査(通行量調査、事後評価調査)										
			事業名		削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響						
	当初計画から削除した事業	基幹事業		なし		-		-					
		地域生活基盤施設		なし		-		-					
		地域創造支援事業		なし		-		-					
		提案事業		なし		-		-					
	新たに追加した事業	基幹事業		①道路(市道 新町王子南線道路整備事業) ②地域生活基盤施設(西大分駅前広場リニューアル事業) ③地域生活基盤施設(荷揚町いこい広場) ④高質空間形成施設(市道 中央通り線歩道修景整備事業) ⑤高次都市施設(荷揚町小学校跡地複合公共施設整備事業) ⑥誘導施設(府内こどもルーム)		①日豊本線西側鉄道残存敷整備事業に併せて整備を行うことで回遊性の向上を図るために事業を追加。 ②西部海岸地区の玄関口である西大分駅前の交通渋滞の緩和、歩行者の安全性の確保等に取り組むため、事業を追加 ③、⑤、⑥平成29年3月に閉校した荷揚町小学校の跡地の活用や周辺公共施設と連携することによる中心市街地のさらなる魅力創造に加え、頻発する近年の大規模災害に対応するための防災機能強化・集積など、大規模公有地の利活用を図る必要があるため、事業を追加。 ④市道府内11号線修景整備事業に併せて、面的に一体感を持たせた修景整備を実施することで、中心市街地における回遊ネットワークの形成を図るために事業を追加。		事業の追加により、中心市街地の回遊性の向上及び魅力的な都市空間の創出が進むことから、「指標1主要文化交流施設年間利用者数」及び「指標2歩行者通行量」の目標値を修正。					
		提案事業		①地域創造支援事業(歩きたくなるまちづくり検討事業) ②事業活用調査(立地適正化計画改定検討)		①休憩ベンチ等を配置することにより、中心市街地の快適性や賑わい創出し、回遊性や滞留性の向上を図るために事業を追加。 ②本市の中心的拠点となる本地区を含む立地適正化計画域内の災害リスクを評価・検討し、立地適正化計画の改訂を行うために事業を追加。		事業の追加により、中心市街地の回遊性の向上及び魅力的な都市空間の創出が進むことから、「指標1主要文化交流施設年間利用者数」及び「指標2歩行者通行量」の目標値を修正。					
交付期間の変更		当初	令和2年度～令和5年度		変更		令和2年度～令和6年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響				
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値	数値	目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ			
	指標1	主要文化交流施設年間利用者数	人	3,933,873人	H30	4,300,000人	R6	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)	予定時期
	指標2	歩行者通行量	人	27,946人	H30	40,800人	R6	-	26,000人(R6)11月実施	△	あり	コロナ禍の影響で利用者数が令和2年度に大幅に減少した。その後は回復傾向ではあるが、生活様式の変化などの要因により、事業効果の発現の確認が難しい。	R7年4月
	指標3	憩い空間の充実度	%	43.7%	R2	50.0%	R6	-	36.7%(R6)	△	あり	日陰や緑陰を伴う休憩施設の整備を行ったが、整備場所や整備内容が市民のニーズに合致していなかった可能性もあることから、市民のニーズに合致した整備を計画に反映させることが今後の課題である。	R10年10月
	指標4									△	あり		
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値	数値	目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ			
	その他の数値指標1	祝祭の広場利用者数	人	819,989人	R2			モニタリング	評価値	達成度※1	達成見込み	(総合所見)	予定時期
	その他の数値指標2	大分駅における乗車人数	人	6,959,455人	H30			-	6,500,000人(R6推計)	-	あり	祝祭の広場は令和元年9月に供用開始でコロナ禍前のデータが無く評価は難しいが、令和2年度から令和5年度までの伸びが大きく、効果発現を示している可能性がある。	R7年4月
	その他の数値指標3									-	あり	コロナ禍の影響で利用者数が令和2年に大幅に減少した。その後は回復傾向ではあるが、市内全体の鉄道利用者数の減少や、生活様式の変化などの要因により、事業効果の発現の確認が難しい。	R7年10月
4)定性的な効果発現状況													
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等					
	モニタリング			-				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					
	官民連携による取組			市道中央通り線歩道修景整備事業への市民等の参加(大分市産木質ブロックの使用)				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					
	持続的なまちづくり体制の構築			官民連携による「株式会社大分まちなか倶楽部」が令和4年5月に都市再生推進法人に指定となり、大分市中心市街地の活性化に係る基本計画において承認された諸事業の推進を図っている。				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					



## 様式2-2 地区の概要

### 大分市中心市街地地区(大分県大分市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標 市民が地域に誇りを持てるまちづくり 目標1 人にやさしく美しい都市空間の整備 目標2 歴史的・自然的な環境景観の保全・形成	主要文化交流施設年間利用者数	単位:人	3,933,873人	H30	4,300,000人	R6	3,250,000人(推計)	R6
	歩行者通行量	単位:人	27,946人	H30	40,800人	R6	26,000人(推計)	R6
	憩い空間の充実度	単位:%	43.7%	R2	50.0%	R6	36.7%	R6



**まちの課題の変化**

①『人にやさしく美しい都市空間の連続性の向上』  
 高質空間形成施設の整備により、美しい都市空間が広がりにつつある。今後は、新しく整備された荷揚町小学校跡地複合公共施設をはじめとする主要な施設や拠点間を結び、質の高い都市空間の連続性をさらに高めることで、人にやさしい都市空間の形成をさらに促進する必要がある。また、質の高い都市空間を活かしたイベントの実施や市民へのアピールなどのソフト面も含め、賑わいある、歩きたくなるようなまちづくりをさらに推進する必要がある。

②『歴史資源の活用を軸に自然と調和した景観形成による誇りを持てるまちづくり』  
 大分城址公園は大分市の歴史資源の目玉の一つである一方、近年は南蛮BVNGO交流館や大友氏館跡庭園の整備とともに大友氏館跡も注目されており、今後もさらなる整備を予定している。海外との交流の先駆けとなって西洋文化を取り入れてきた大友氏館跡の歴史は、国内でも際立った特色を持つ大分市民の誇りでもある。大友氏館跡は都市再生整備計画区域外の東側で大分駅から徒歩圏内にあることから、大分城址公園、大分駅、大友氏館跡、さらには大分川へと連続性や回遊性を高めるなど、歴史資源や自然資源の活用を軸とした面的な都市構造の拡張が望まれる。

**今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)**

まちの課題の変化に伴い、次の二つのまちづくりに関する方策を推進する。

○方策1: 主要な軸のさらなる整備推進による面的な都市構造の強化  
 当地区は大分駅を中心として、南北軸(駅北の中央通り、駅南の「大分いこいの道」、県庁前古国府線、国道197号 等)、東西軸(国道197号、国道10号、鉄道残存敷 等)による面的な都市構造を有しているが、その中でもさらなる高質空間形成施設の整備が必要な部分も見られることから、これらの整備により面的な都市構造の強化を図る。

○方策2: 歴史・芸術等の文化拠点や優れた景観エリアを結ぶ回遊ネットワークの強化  
 大分駅を玄関口として、歴史・芸術等の文化拠点(大分城址公園、大友氏館跡、大分県立美術館OPAM、大分市立美術館等)や西大分駅周辺の優れた景観を有するエリア(かんたん港園、たのうらら等)をつないで魅力の相乗効果を生み出すため、南北軸(中央通り、大分いこいの道等)や東西軸(鉄道残存敷、国道197号)の強化による質の高い回遊ネットワークを構築するとともに、市民ニーズに合ったベンチやあずまや等の休養施設整備により滞留性を高め、地区全体としての魅力向上と回遊性の向上を図る。